莢インゲン（菜豆）のカルテック栽培

（１０アール当り）

時期		方法	資材
地力作り		なるべく早い時期に（最低限２０日前迄に）投入し、深く耕します	**ラクトバチルス　６００グラム** … 排水・通気がよく、保水もよい土に。 **堆厩肥　２トン**(以上)　（堆厩肥のC／N比に注意） ※特に３年以上の連作をする場合は、堆肥・ワラ・有機物等を**４トン**。 **硫安　８０ｋｇ**　（複合肥料ならN成分１６kg程度） ※インゲン豆は豆類としては多肥ですが、定植時には無機チッソがあまり効いていない状態（土壌ＥＣ：０.２以下）が適当です。微生物がチッソを有機化するために、早めに投入して地力作りをしてください。 ※もし土壌が酸性（ｐH:５.５以下）の場合は、畑のカルシウム　６０kg程も同時に投入します（更に整地時にも）。 好適ｐＨ：６.０～６.５。
整地時		整地時に全面散布して、ウネを作り、適度な水分でポリマルチを張る	**畑のカルシウム　６０ｋｇ** ※このカルシウムは栽培中のｐＨ低下を防ぎ、着莢を順調にします。
育苗	床土	床土の混合の**例**	**畑土(赤土)３・クン炭２・堆肥１の材料と、１０kg 当り１０ｇのラクトバチルスを混合して、２０日(以上)寝かせる。畑のカルシウム３００ｇも混和する。**
育苗	育苗中	散水時に使用 （葉の上から潅水） ※散水は朝９時迄に。夕方、表面が乾く程度。	**濃　縮　酵　素　液**　１０００倍 … 根を強くし、生長を促進 **カルテックＣａ液状**　１０００倍 … 葉を厚くし、充実させる ※初生葉の展開後（間引き後）酵素液を散水。（箱蒔きなら移植時） ※その４日後にＣａ液を散水。以後、４日間隔で**交互に**。 ※葉が触れ合う後半は 主としてＣａ液。 ※定植３日前(本葉２枚)にＣａ液を散水して、外気にあて、馴化する。
育苗	定植時（移植）	定植前の植え穴潅水などに	**濃　縮　酵　素　液**　５００倍液 … 活着・初期の根張り促進 ※更に定植後４日頃に、酵素液を手潅水すると効果的。
初期（収穫前）		葉面散布 （２種・交互） ※収穫中も適宜、散布して生育を調節	**濃　縮　酵　素　液**　５００倍液を葉面散布　（根・生長の促進） ※根と導管が強くなり、根腐れ病･風害･低温害にも抵抗性が出ます。 ※特に芯止め(摘芯)の日には 直後に散布。 **カルテックＣａ液状**　５００倍で葉面散布（生育を引締め､病害対策） ※徒長を抑え、サビなどの病気にも強く、花着きを良くします。 ※特にトンネル除去の前後や，開花前には散布。
潅水施用（収穫中）		土が乾かないよう潅水し、月周期で右記３種を交互使用 （液状で追肥）	**濃　縮　酵　素　液**　１０アール当り２～５リットル … 根の強化 ※特に下葉が黄化したり､根腐れの時は 急いで潅水施用。 **ア　ミ　ノ　酸　液**　１０アール当り５～１０リットル … 栄養補給 **カルテックＣａ液状**　１０アール当り２～５リットル … 花と豆の栄養 ※過繁茂を防ぎ、受精不良による花落ち・奇形莢を無くします。
追肥（収穫中）		収穫開始後、１ヶ月間隔で。 ただし花数・着莢数が増える時は半月ごと、遅れないように	併用：**硫　安　２０ｋｇ** … 茎葉全体の生長を増進 **畑のカルシウム　２０ｋｇ** … 莢・実の充実・肥大と成熟を促進 ※ただし硫安とカルシウムを同時施用する場合は､混ぜたまま時間をおかないように してください。